

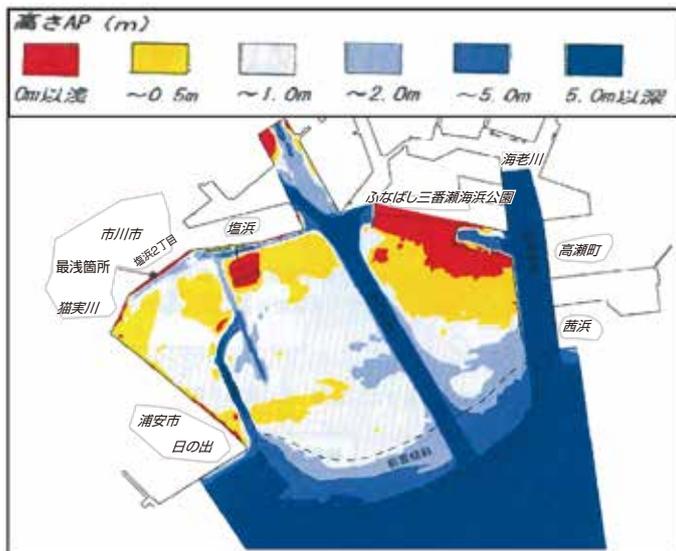


# 三番瀬の環境

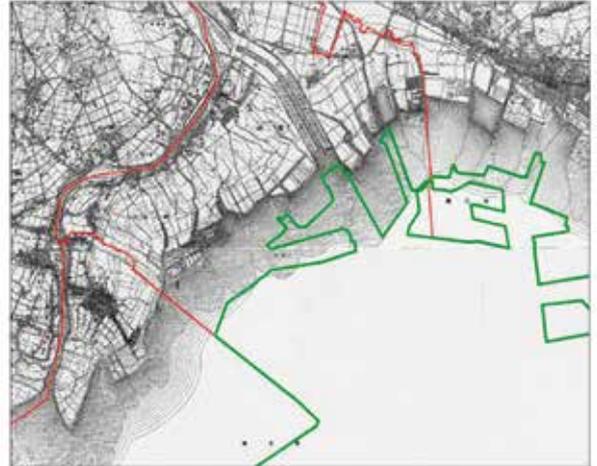
かつての三番瀬周辺には、江戸川等から継続的に土砂や栄養分を含んだ淡水が流れ込むことにより、広大な干潟・浅海域が形成されていました。そこには多くの生物が生息し、豊かな海の恵みを生かした漁業が盛んでした。

しかし、戦後の高度経済成長の中で、大規模な埋立てや都市化により、三番瀬周辺の環境は大きく変わりました。干潟・浅海域の面積が大幅に減少し、河川とのつながりが弱まったこと等により、生態系の著しい変化、漁業生産の不振や水質汚濁等を招くこととなりました。

## 三番瀬の深浅図(平成23年度)



## 三番瀬周辺の埋立地の推移



1945年(昭和20年)

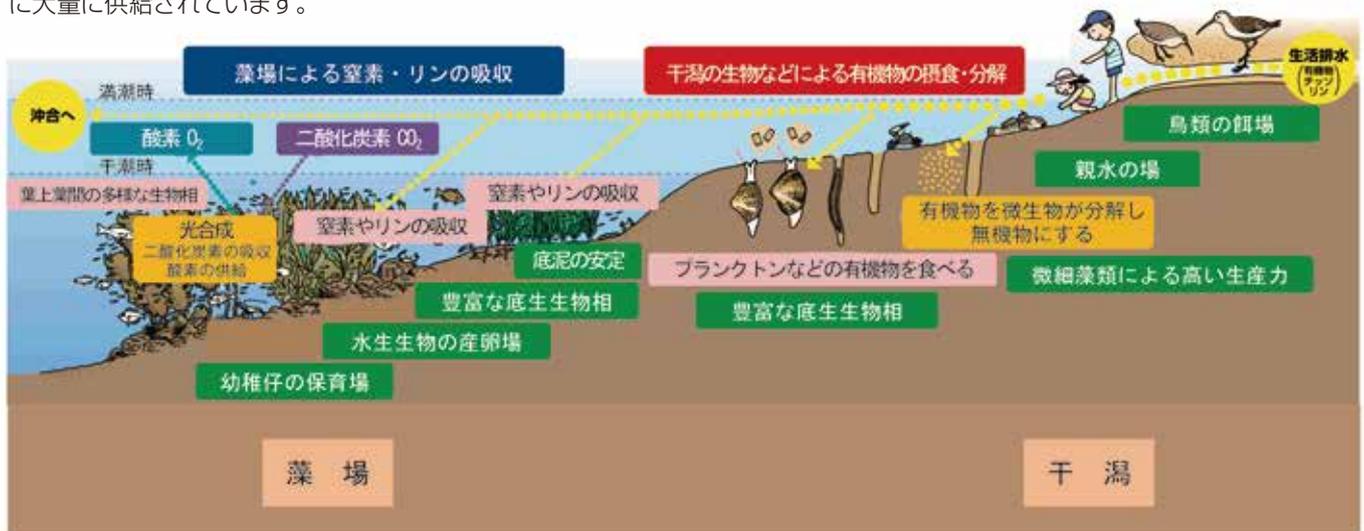


1998年(平成10年)

## 干潟の生物と水質浄化作用

干潟には多様な底質・水深の環境があり、それぞれの環境に適応した生物が生息しています。

干潟ではこれらの生物の食物連鎖によって海水が浄化されているほか、潮汐に伴って、有機物の分解に必要な酸素が海水中に大量に供給されています。

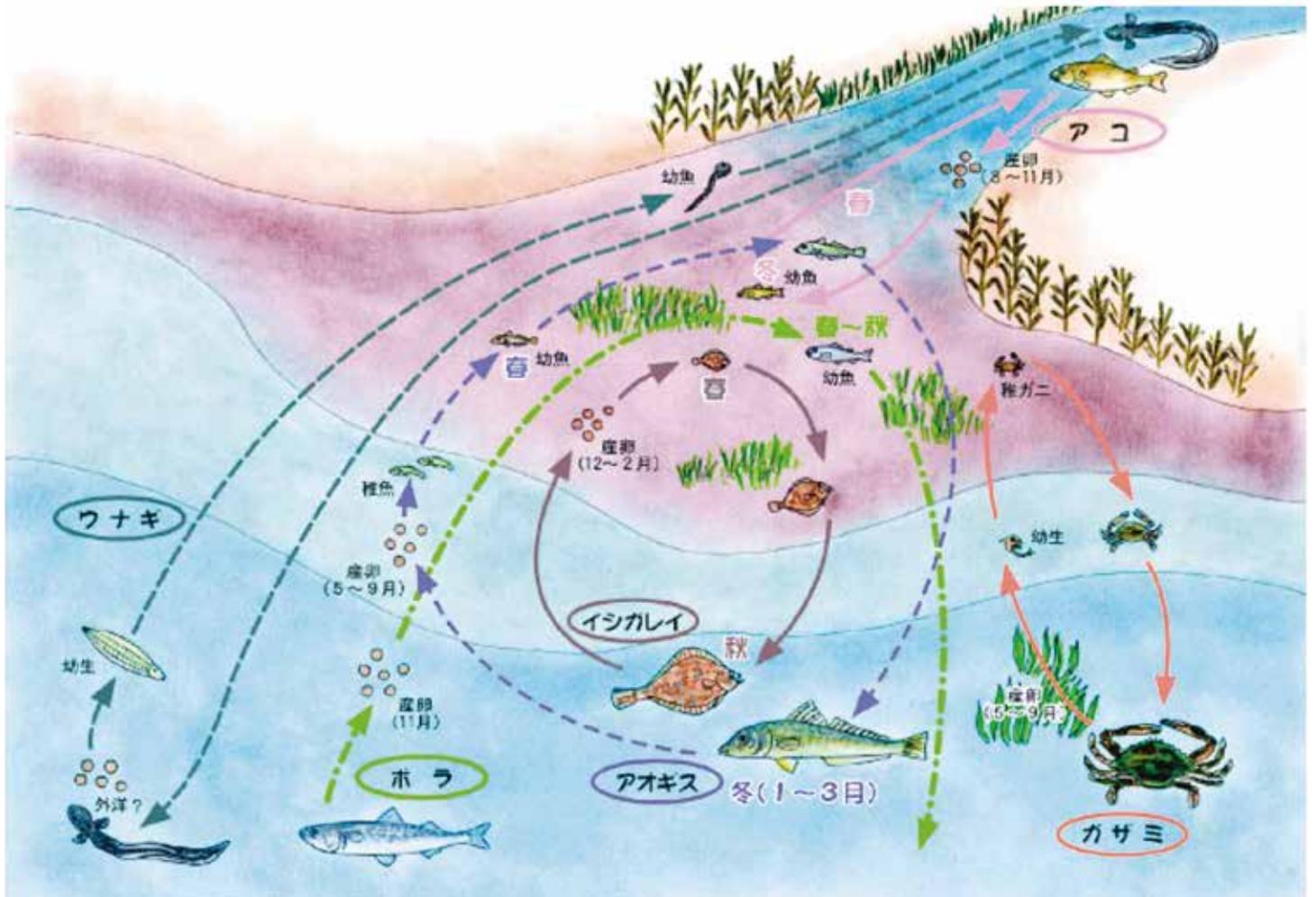


出典:水産庁HP

## 三番瀬と海の生物

開発前の三番瀬と海の生物の生活史は下の図のようであったと考えられています。

現在の三番瀬は昔と比べると河川とのつながりが薄れてしまいましたが、東京湾の干潟・浅海域の多くが埋め立てられた現在、三番瀬は、魚類が産卵し幼魚が生育する場所として、東京湾の最奥部に残された貴重な場所になっています。



## 三番瀬と東京湾の漁業



▲海苔干し場(昭和42年頃、浦安市堀江) 浦安市郷土博物館所蔵

江戸時代から東京湾北部は「江戸前」と呼ばれ、幕府に様々な種類の魚介類を献上する「御菜浦(おさいうら)」として繁栄しました。明治時代後期にはノリ養殖も始まり、アサクサノリの産地としても有名になりました。

戦後以降、三番瀬の漁場環境は大きく変わり、アオギスやハマグリなどが見られなくなりましたが、ノリ養殖やアサリ漁業は、生産量は減少しているものの現在も主要な漁業となっています。



▲東京湾のまき網漁(写真:中村ひろ子)

三番瀬の干潟・浅海域は、東京湾に棲む魚介類が産卵し、幼魚が生長する「ゆりかご」として寄与していることから、東京湾で営まれる様々な漁業のためにも三番瀬の保全・再生が重要です。